

魔法少女リリカルなのは外伝 魔法戦士ウィザーヴァルキリー

G— Infinity

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

舞台は魔法少女リリカルなのは Reflection の前に語られる別次元管理世界の物語。

先祖代々受け継がれてきた魔法騎士「ヴァルキリー」に家系生まれた少女 フラム・ウイザー。

彼女の家族はある指名手配魔法犯罪者に命を奪われ、先祖が代々守ってきたロストロギア「創造（クリエイト）」を盗まれてしまう。

彼女は家族の復讐とロストロギアを取り戻すためヴァルキリーの名を継承する。

そして、时空管理局魔導師の青年 ゼクス・アイン。

彼は时空管理局の新型デバイス※（Reflection に出てくるカノンなどのプロトタイプ）のテスト魔導師。

彼もかつて 親友 グレン・アスカを指名手配魔法犯罪者を

彼は親友と数多くの人達の無念を晴らすため管理局に入り犯人を捕まえ罪を償わせることを誓う。

犯人に復讐を誓う少女と捕まえ罪を償わせることを誓う青年の物語。

第1話 「魔法騎士の少女」

目

次

第1話 「魔法騎士の少女」

私は全てのを奪われた…。

あの日から全てが始まった…あの壊れ燃えさかる家、私の目の前に
は柱の下敷きになつた母がいた。

「お母さん！」

私はすぐさま母の所に掛けよつた。

その時、父のことも探していた。見つけたときには父は既に死んで
いた。

私は悲しみかつたがその前にまだ生きている母を柱の下敷きから
助けなければならぬ、その想いでいっぱいだつた。

下敷きになつた柱を別の柱で持ち上げ、母を抜け出せようとしたが
その上からコンクリートが今でも私と母に降つてきそうだつた。

「フランム…貴方だけでも逃げなさい…」

母は私にそう言つた。でも私は

「嫌だ！お母さんを置いていけない!!」

私は懸命に力を持つてゐる柱に力を込めたでもビクともしなかつ
た…。

「フランム…これを…」

母は私に一つの剣の形をしたペンダントを渡した。

「これは…私たちの家系に伝わる物…あなたを守り、あなたを強くし
てくれる力がある…」

コンクリートはついに耐えられなくなり、私と母に倒れてくる
「さあ…行きなさい!!」

母は私を残り力で押し飛ばした。

「フランム…強く…生きなさい…」

その言葉を最後に母はコンクリートの下敷きになり、死んだ。

目の前にはコンクリートからにじみ出てくる母の血が今でも忘れ
ない…

「うつ…うわああああああああああ!!」

私はこの時誓つた……。

それから…2年後。

管理世界第36世界

そこには、数多くの管理局の魔導師がある建物を封鎖していた。

管理局魔導師A「こちら偵察班。ただいま未確認の魔力反応を追跡中。今大きな動きはありません」

「了解。でもあまり無理はしないで」

管理局魔導師B「レティ提督。どう思われますか?」

「そうね…。この反応は普通の魔導師ではあり得ない。もしかすると、ロストロギア…」

すると、通信から何者かに襲われる音がした。

「うぎゃあああ!!」

レティ提督とその場にいた魔導師達は焦り出す。

「どうしたの!?」

管理局魔導師C「偵察中の魔導師が何者かに襲われたもよう!」

管理局魔導師D「魔力反応は未確認の者と思われます!」

建物に偵察していた魔導師達は未確認の魔物か魔導師かわからぬいもの交戦に入る。

デバイスなど様々な攻撃をするが、魔力攻撃をすへて体内吸収してしまうのだ。

管理局A「くそつ!これならどうだ!」

管理局Aは建物の中に閃光弾を上げ、敵の姿を確認した。

なんとそこにいるのはこの世の物とは思えない見にくい化け物だつた。

チエンソーヒューマン「ギエエエエエエ!」

化け物は奇声をあげ管理局に襲いかかる。

モニターでも確認したレティ提督は、

「みんな危険よ!!直ちに建物に結果を強めて撤退を!!」

と偵察の管理局達に伝える。

そんな中別の建物屋上からフランムが立つてた。

「ロストロギア クリエイトより生まれたヒューマンを発見」「うん…。わかつて、私も確認した…行こう、ミネルヴァ」

「はい。マスター」

フラムは仮面を付けその建物から飛び降り、管理局と怪物のいる建物に屋上壁を壊し侵入した。

管理局A 「なつ、なんだ!?」

「あなたたちではこいつは倒せない。離れて」

チエンソーヒューマン 「ギエエエエエエ！」

チエンソーはフラムに襲いかかる。だがフラムは家族の形見のペンダントを取り出し、ペンダントは剣へと変形する。

剣はチエンソーヒューマンのチエンソーを受け止め、一振りで吹き飛ばした。

フラムは、剣を床に刺し…

「我的声に応えよう…闇を切り裂き、光を照らす天の翼を…ヴァルキリーの鎧を我の元に!!」

起動パワードとともに魔方陣が出現。管理局のレーダーにもその魔力反応を察知する

管理局D 「また新たに大きな魔力反応を察知！術式は…ミッドチルダ式でもベルカ式でもありません!!」

「なんですか？ミッドチルダでもベルカ式でもない新たな術式…彼女は…一体…」

フラムの体中に鎧が装着された。その姿は美しく白銀に輝く天使の騎士だった

「私は…魔法騎士 ヴァルキリー…光を照らす騎士…。」

チエンソーヒューマン 「ギエエエエエ！」

チエンソーヒューマンは再びヴァルキリーに襲いかかる。

「のぞまむ姿で生まれた魔物を…この剣で静かに眠れ！」

「ヴァルキリーレーザー！！」

剣の一振りでチエンソーヒューマンは一刀両断した。

チエンソーヒューマンは魔力の小さな破片となり消滅した。

私は…あの時誓った…、私の家族を奪つたあいつを…、全てを壊し

たあいつを…家族が残してくれたこの力であいつを殺すと。

第1話 「魔法騎士の少女」 完